



11月30日(金)  
テストの後に  
高等学校調べ  
を行いました。

皆さんに高等学校の事を知ってもらおうと思い、高等学校調べをやってみました。今日、1校時に発表があったと思いますが、いかがでしたか？興味をもった高等学校はありましたか。進路の事はまだまだ先の話だと思ってる人が多いかもしれませんが、3年生は来週から始まる三者懇談で受験校を決定する予定です。最後の進路希望調査は11月28日が提出期限でした。私立高等学校の願書は1月に受付が始まり、多くの学校では1月中旬に締め切られます。

実際に試験を受けるのは年が明けてからのこととなりますが、その準備は1年後にはだいたい終わっているということになります。まだまだ先の事と思わず、今から真剣に考えて行きましょ。

明石市立錦城中学校  
第73回生 学年通信  
第133号  
平成30(2018)年  
12月5日(水)



# 11月14日(水)「ひなん日記」を体験した感想

思っていたより、うまくいかないことがたくさんありました。ぐっすり眠れなかったり、ごはんが食べられなかったりしました。でも病気がならなくて良かったです。4日間全部ボランティアをしました。カードの内容を他人にゆずったりする機会が多くて、そういう時はゆずりました。

今日はカードを使つての体験だったけれど、避難所の生活はとも大変だったと思つし、今の生活が当たり前にならざると思つきました。

とても難しかったです。途中から病気がかかって、食べ物なくなつてたといへんでした。避難所にいると、泥棒が出てくるんだと思つきました。

食料や毛布が複数あるときは、誰かにゆずることができたけど、一つしかないときは、ゆずれなかった。全然食べたくない人や寝てない人の気持ちがあまり考えられていなかった。だから災害があつたときには、数に関係なく、人の気持ちを考えて、ゆずる合つて協力し合つて生活できるやうにしたいです。

自分が病気になったり、ご飯が食べれなくなつても、他にももっと、しんどい人がいる事。誰かが助けてくれてこそつれしかった事です。ひなん日記で色々な事が知れました。

はじめは全然大丈夫だろうと思つていたが、どんどんトラブルが増えてきて、持ち物がなくなつてしまつたときは、やはりと思つた。食べ物も自分では用意しておくことができなかったけど、譲ってくれたとき、とても助かつたので、協力することは大切だなと思つた。トラブルは起こさないやうにしようと思つた。

私はまだ大きい地震にあつたことがないから、具体的にはわからなかつたけれど、今日のひなん日記をやつて、少ない食料の中で、どれだけやりくりするか、や、班のみんなとどれだけ助け合えるかというのが、よく分かりました。この先、南海トラフがいつ来るかはわからないけれど、大きい地震が来た時にどう行動したらいいか、とかを考えながら生活をしていきたいです。

まず最初の疑似体験から始まつてゲーム形式で軽く避難所の実態というものを知り、世界のごじこめられたのを見て、衝撃でした。これから、しっかりと避難対策したいと思つます。

地域の人々と支え合つて、協力することが大切。一番しんどそうな人を優先していかないといけないのがわかつた。

ゲームだからいいけど実際に病気とかになったら、きついだらうなと思つました。食料も本当にないんだなと思つていました。

ある日は食べ物なかったり、寝ることができなかつたり、病気になつたりと全てがそろつ日が一度も無かつた。生活も安定せず精神状態も安定しないと思つ。避難生活はこつこつものなかと知ることができた。こつこつこつを少しでも防ぐために日々から準備して行きたいと思つた。

自分はまだ不幸なことが起こらなかつたんですが、周りの人がこつこつ不幸なことが起きていて、私はその人を助けることができました。とても助け合ひができたと思つます。これを本番(災害時)に活かせたらいいと思つます。

『ひなん日記』を通して避難生活の実態についての知識が深まりました。みんなが助けをもとめる避難所でさえも、人と人との間でのトラブルや格差があることを知り、驚きました。これから、私たちはとても大きな災害にあつた可能性は十分にあるので、今日の学習をふまえて、これからの災害に備えていけたらなと思つます。避難所内での生活状態がよく分かりました。良い時間になつたと思つます。

治療カードが一枚もなく、病気にかかつてしまつた時に病院の大切さを改めて知りました。また家では布団で寝ていたけど、避難の時には地面に寝るのはキツいと思つた。

最初は食べ物とかたくさんあつたけど、日がたつにつれて、食べ物は減つて、病気がかかつて、ボランティアができなくなつていきました。病気がかかつて、自分は治療セットを持つていなくて、こつこつこつと思つていたら、治療セットではないけど、毛布をもらうことができました。その時に、ものすごくありがたいと思つました。自分は助けてもらうだけだつたけれど、助け合つてことは、すごく難しいけれど、その分、とても大切なことだといつことがわかりました。

地震の後の生活が少しだけれど、わかつたよつな気がした。これから、こよつな体験があれば参加したい。

状況に応じて、困っている人がいたら助けたり、助けてもらつたりしたのでも、お互い助け合ひができるやうにしなければならなと思つた。

ゲーム感覚では体験できまし、その中で避難所生活の苦しさや厳しさを知ることができまし、助け合ひの大切さも学ぶことができてすこしい体験ができて良かった。

苦労した人や恵まれていた人が避難所にはいて、避難所の中で格差があることがわかりました。食べ物や毛布などをゆずつたり、もらつたり、ボランティア活動をしたり困っている人がいたら助けることが大切だと思つました。自助、共助を大切にして、公助はつかりに頼らないやうにしたいと思つます。

もし本当にその場にいたら、大切な食料をわけられるらうか。3枚あれば最高なのに人に2枚も毛布をわけられるらうか。本当に体験しないとわからないことも多いけれど、考えるいきつかけになつたと思つます。与えたいものは、必ず自分に返つてくると信じてゆずりたいと思つます。災害が起きたときは子どもも大人も関係なく、健康で動けるなら、助け合ひもしていきたいと思つます。

いつ、病気になるのか分からなかつたり、食料や毛布が渡されるかわからなくて不安になりました。もし、自分の持ち物で困っている人がいたらゆずつてあげられるやうにしたいです。

私は被災したことがないから、避難所の様子や被災者の心や気持ちはわからないけど、今回のカードで、少しくらい分かることができたかなと思つました。自分が被災者の立場になつたときに少しでも人に優しく、助け合えるやうな人になりたいです。

とてもおもしろいゲームで、人にわかるかなど、とても迷つことが多くて避難所で行動できるか心配になつた。でも、またこのゲームをしたい...

ゲームでもかなり大変なのに、実際に起こつたらどうなるのらうか、とても不安。やっぱり準備は必要だと思つていました。